

令和4年度「英語指導力向上事業」 ～いわき市立中央台東小学校～

現状の課題

- コミュニケーションに前向きに取り組む態度
- 対話を継続する力
- アルファベットの読み書き
- 既習知識の範囲で、自分の気持ちや考えを伝えるために思考・判断・表現する力

具体的な取組の内容

- コミュニケーションに前向きに取り組むための場面設定の工夫
→ 自分の考えや気持ちを伝えたいように「目的・場面・状況」を明確にし、児童と共有を行った。日本の文化を外国の人に実際に紹介する、教科横断的な話題を投げかけるなどして、コミュニケーションの場面で扱う話題についても精選を行った。
- 既習表現を用いたSmall Talk
→ Small Talk において「One more Question」といった目標を児童と定め、対話を継続する力の向上を目指した。
- ミライシードを使用した教材作成と活用
→ オクリンクやムーブノートで教材を作成し、語順を意識して発話できるようにした。
- 読み書き練習ワークシート等の活用
→ 授業内で十分に慣れ親しんだ表現を含むワークシートを宿題として出したり、カードゲームを楽しんだりするなど、既習表現を使って読むことや書くことに親しむ機会を設定した。
- 中央台版CAN-DOリストの活用
→ CAN-DOリストをもとに授業構想を行うことで、指導者が既習知識を踏まえた上で、Small Talkなどで復習の機会を確保し、学んだ知識や表現に繰り返し触れることができるようにした。



小中英語パートナーシップ事業及び英語指導力向上事業授業公開の様子

児童における成果

- Speaking Questによる練習に加えて、ALTによるパフォーマンステストを設けることで、自信をもって発話できるようになってきた。
- Small Talk で繰り返し既習表現に触れることにより、既習表現を使っての会話を継続する力が向上してきた。
- 具体的な「目的・場面・状況」を設定して言語活動に取り組むことで、子どもたちが相手意識をもって主体的に学習することができた。
- 「文を書くときのチェックリスト」を活用することで、子どもたちが自分の誤り気づき、正しく書くことができるようになってきた。

教員における成果

- CAN-DOリストを使った振り返りの一部をGoogle Formで実施することで、授業後すぐに子どもたちの理解度や傾向をつかみ、次の授業に活かすことができた。
- CAN-DOリストを基に、単元を通してできるようになったことを教師と子どもが共有することで、「何ができるようになったか」が、明確になり、子どものできたという実感がもたせやすくなった。

今後の課題・方向性

- 自分が知らない言葉が出てきたときに、すぐ教師に答えを求めてしまう傾向があるため、意味を推測したり友達と話し合ったりするなど、自分で考え、相手を理解しようとする態度を育てたい。
- タブレット使用时、子どもたちの発話が減ってしまう傾向があるので、タブレットの良さを活かしつつ発話の機会をしっかりと確保できるように使用方法や授業構成など工夫する必要がある。
- 小中のつながりをスムーズにするために、協力校である中央台南小との横のつながりを強化する必要がある。微修正したCAN-DOリストや教材、指導方法、Classroom Englishなどを、Googleを活用して共有していく。